

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●キズナ産駒がJRA通算1000勝を達成

10月10日(土)の4回東京3日・第8レースではアローメタルが1着となり、キズナ産駒のJRA通算勝利数が1000勝となりました。これは種牡馬としてJRA史上25頭目の記録となります。

●第16回ジョッキーズベイビーズの決勝大会開催

10月11日(日)の4回東京4日・第12レース終了後、東京競馬場の芝・直線400mを舞台として全国ポニー競馬選手権「第16回ジョッキーズベイビーズ」決勝大会が開催されました。全国7か所の地区代表決定戦・選考会で選出された8名(関東地区は2名、その他の地区は各1名)が出場し、優勝を飾ったのは北海道地区代表の笠松渚さん(小学6年生)でした。

●2歳・芝1,600mの中央競馬レコードタイム更新

10月10日(土)の4回京都3日・第2レースではパティックが1分32秒1のタイムで勝利しました。これは2013年にミッキーアイルが記録した1分32秒3を更新する、2歳・芝1,600mの中央競馬レコードタイムとなります。

●ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

国際競馬統括機関連盟(IFHA)から恒例の「ロンジンワールドベストレースホースランキング」が発表されました(単位はポンド)。今回の発表分は2026年1月1日から10月4日までに実施された世界の主要レースが対象で、前回に続いて首位(135)をキープしたカーインライジング、第2位(131)のオンブズマンに次いで、凱旋門賞を連覇したダリズが第3位(128)へとランクアップ。日本調教馬は、フォーエバーヤングとメイショウタバルが第21位タイ(123)、クロワデュノールとマスカレードボールが第26位タイ(122)と4頭が掲載されています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●南部杯(盛岡)でJpnI 初挑戦メイショウハチローが重賞初制覇

マイルチャンピオンシップ南部杯(JpnI、10月12日、盛岡、1,600m)は、3番手前後を進んだ3番人気のメイショウハチロー(吉原寛人騎手=金沢、牡4歳、父シニスターミニスター)が、逃げ粘るストレンクスを残り50mで差し切って3/4馬身差で優勝。単勝1.7倍で断然人気の昨年の覇者ウィルソンテソーロは3馬身遅れの3着、キタノズエッジは4着、ペリエールは5着、2番人気のルクソールカフェは6着、初ダートのレーベンスティールは8着に敗れています。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンドの結果

2026ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド金沢は9月15日に実施され、第1戦は和田陽希騎手(栗東)、第2戦は新庄海誠騎手(兵庫)が優勝。9月22日のトライアルラウンド高知は、近藤翔月騎手(高知)が第1、2戦を連勝。9月29日に行われたトライアルラウンド船橋は、第1戦を杉山海波騎手(大井)、第2戦を椿聡太騎手(船橋)が勝利。10月1日のトライアルラウンド佐賀は、第1戦を長谷川蓮騎手(佐賀)、第2戦を田山旺佑騎手(栗東)が、10月8日のトライアルラウンド園田は、第1戦を新庄海誠騎手(兵庫)、第2戦を河原田菜々騎手(栗東)がそれぞれ制しています。

●浦和のルースアグレッシブが若武者賞を圧勝【各地の2歳重賞】

若武者賞(9月10日、川崎、1,500m)は、出遅れを挽回して逃げた3番人気のルースアグレッシブ(牡、父シャーラタン)が5馬身差で圧勝。石川テレビ杯(9月6日、金沢、1,400m)は、先手を取った2番人気のミラクルサリチャン(牝、父サリオス)が一旦後続に並べながらも振り切り、デビュー以来3連勝を達成しました。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1フィリーズマイル〜ミュージカルタイムズがデビュー4連勝

現地10月9日にイギリスのニューマーケット競馬場で行われたG1フィリーズマイル(2歳牝、芝1,600m)はW.ビュイック騎手を背にしたミュージカルタイムズ(牝2歳、父ロペデヴェガ、C.アップルビー厩舎)が勝負所で前が塞がる場面がありながらも、そこから抜群の瞬発力を発揮して優勝しました。1馬身差の2着に未勝利戦からの連勝を狙ったヘイヴン。勝ったミュージカルタイムズは今年6月のデビュー戦(芝1,400m)を制すと、7月の2戦目(芝1,390m)も勝利。さらに前走9月のG2メイヒルS(芝1,600m)を7馬身半差で楽勝して重賞初制覇を飾り、ここに臨んでいました。

●G1デューハーストS〜ダークネスフォールズがG1連勝

上記したフィリーズマイルの翌日に同じニューマーケット競馬場で行われたG1デューハーストS(2歳牡牝、芝1,400m)はR.ムーア騎手が手綱を取ったダークネスフォールズ(牡2歳、父キャメロット、愛A.オブライエン厩舎)がG2英シャンペンSの勝ち馬デザートキャッスルとの接戦をクビ差で制して優勝しました。勝ったダークネスフォールズは今年8月のデビュー2戦目(芝1,600m)を7馬身差で制して初勝利を挙げると、続くG1ゴールデンフリースS(芝1,800m)も4馬身1/4差で快勝していました。